

## 第2回北九州市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事概要

日 時 平成 27 年 3 月 26 日(木) 18 時 00 分～20 時 00 分

場 所 ステーションホテル小倉 5 階 飛翔の間

出席者（構成員）

大島 まな （九州女子大学 教授）

岡田 知子 （西日本工業大学教授）

佐藤 竜司 （i6コンサルティンググループ株式会社 代表取締役）

勢一 智子 （西南学院大学 教授）

徳田 光弘 （九州工業大学准教授）

羽田野 隆士 （北九州商工会議所専務理事）

（敬称略・50 音順）

### 1 開会

―市長挨拶―

### 2 議事

(1) 北九州市まち・ひと・しごと総合戦略策定に向けた説明について

―「資料4」、「資料5」、「資料6」に基づいて事務局より説明―

(2) 学生とのディスカッション

―学生から就職に関する考え、思い、北九州市の魅力、イメージなどを学生から意見―

―有識者との意見交換を実施―

### (3) ディスカッションでの主な意見

#### ア 学生からの意見

##### 北九州市の現状と課題

- ・ 「北九州といえばこれ」というような誇りにできるものが欲しい。
- ・ 北九州市の良さをもっとPRしていかなければならない。
- ・ 大人と学生がこういった形で意見交換のできるのは北九州市の強みだと思う。
- ・ 北九州市に来れば、課題を解決するための思考力や行動力が育成できる教育の場があり、そこに集まってくる魅力的な学生を求める企業を集めてはどうか。
- ・ 北九州市の治安が悪くないことをしっかりと発信すべき。不発弾等の悪いニュースを取り上げすぎている気がする。
- ・ 自分自身は治安についての不安はないが、やはり家族ができれば気になってしまうので、イメージが払拭できれば不安はなくなると思う。
- ・ フィルム・コミッション等で活躍している団体の認知度が低いので、もっとPRすべき。
- ・ 近所で子ども会がなくなっていたり、商店街のシャッターが閉まっていたりと街の変化を肌で感じる。小倉駅北口開発等の新規事業も大事だが、シャッターの降りている商店街等、今あるものの活性化も必要である。
- ・ 大都市よりはゆったりとした所に住みたいが、ある程度遊べる所も近くに必要。
- ・ 東京や大阪は少し窮屈に感じるところがある。その点、北九州市は、ある程度都会で、それでいて自然もある環境がいいのでは。
- ・ 北九州はこれからどんどん発展していくと思うが、環境が悪くならないように整えてほしい。
- ・ 北九州の技術を中国にPRし、会社を誘致してはどうか。
- ・ 北九州市には向上心を持って積極的に問題を解決したり、学生団体に活動している学生が多い。

##### 就職

- ・ 住んでいるうちに北九州が好きになり、北九州に就職をしたい。
- ・ 以前に比べて変化している街を見て、一度外に出て新しいスキル等を吸収しつついずれは北九州市に戻って来たい。
- ・ 都会に出て大きな仕事をしたいが、定年後に北九州に住みたい。
- ・ 自分自身のやりたいこと（実験・研究等）ができれば、就職場所どこでもよい。
- ・ 最初は会社に就職し経験を積み資金等の準備ができれば、将来的に起業する。
- ・ 仕事に対するイメージが湧くため、インターンシップは重要。

### **福岡市との比較**

- ・ 福岡市には人の多さ、賑わい、店舗の多さ、珍しいところに行ったというワクワク感といった魅力がある。
- ・ 普段生活している空間ではないところに行くという特別感、非日常感がある。
- ・ ショッピングは福岡市の方が若者向けの店も多く、品数も選べないほど多い。
- ・ 雇用者数では福岡市にはかなわないので、職場は福岡市でも北九州市に住んでもらえるように子育て支援等に取り組んでもらいたい。
- ・ 北九州市の企業イメージについて、福岡市の方がすごくいい企業があるという偏見があると感じているので、学生と企業が接することのできるイベントを実施してもらいたい。

### **地域活動、学生活動**

- ・ 地域活動の存在を知らない学生が多く、知っていれば参加したかったという意見をよく聞く。地域活動などの情報についてもっと情報発信してほしい。
- ・ より多くの学生に地域活動に参加してもらい北九州の魅力を知ってもらいたい。
- ・ 現在、ごみ拾いをする活動を行っているが、友達と一緒に楽しくできることや世代を超えた人との出会いがあるので、そういうイメージを他の人にも持ってもらえると地域活動やボランティアのイメージが変わると思う。
- ・ 佐賀県では公園を自分たちで造るイベントを行っており、北九州市でもそういった地域に愛着を持ってもらえるような取り組みをしてほしい。

### **結婚、出産と仕事**

- ・ 結婚して子どもを産んでも育児休暇等を活用し、子どもが大きくなったら復帰して定年まで働きたい。
- ・ 結婚したら仕事に関しては妻の意見を尊重したい。個人的には、育児休暇を積極的に取得したいと考えている。
- ・ 子どもが産まれたら、どちらかが子どものそばについていた方がいいと思う。
- ・ 母親が専業主婦をしている友人は専業主婦になりたいと言っている。育った環境も大きいのかと思う。
- ・ 自分が働きながら子どもを保育園に入れることができるのかという不安がある。
- ・ いろいろな事件が発生する中で、子どもたちが安全に遊べる場所があるのかという不安がある。
- ・ 高知では、近所づきあいや助け合いの風土があり、子育てするにはいい環境だと感じた。

## イ 有識者からの意見

### 大島構成員

- 仕事を続けたい女性を応援するためには、子どもが健やかに成長できるような場を整え、安心して働ける条件を整備することが大切である。

### 岡田構成員

- 今日参加の皆様は地域活動に積極的に関わっているが、多くの学生はあまり地域活動に熱心でないと思う。

### 佐藤構成員

- 地元の良いところをSNSのようなコミュニティで共有してもよい。
- 常に刺激のある環境がワクワクを感じさせるのではないか？そういった意味で東京は刺激があり、そのワクワクを情報として発信している。

### 勢一構成員

- 人生のトータル設計として、自分に関わる人間関係を充実させることができる環境が必要である。
- 地域のコミュニティは一朝一夕ではなくつながりの蓄積が重要である。

### 徳田構成員

- 地方創生には様々な角度からのアプローチが必要であるが、何のための施策かが見えないまま実施されているように感じる。
- 北九州の地方創生はこれだと一言で言えるものが必要である。
- 実際に育児をしている母親のリアルな意見も取り入れるべき。
- 女性が生き生きと子育てしながら働いていける環境づくりが大事である。

### 羽田野構成員

- 商工会議所では、各大学と連携を強くして、学生の皆さんが街中を練り歩けるような仕掛けを計画している。
- まずは働く場所がなくてはならないので、北九州で企業が活性化するような取り組みが必要である。
- 北九州市の中でも、規模の大きい企業は世界で活躍できる人材を求めているが、職場が北九州に限定される企業もある。

以 上